
紅葉

通り上げ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紅葉

【Nコード】

N1718B

【作者名】

通り上げ

【あらすじ】

秋の頃の僕がどんな風に恋に落ちて、振られたかという変なお話し。

(前書き)

秋の頃に書き、パソコンの中を整理してたら出てきた変な一作です。

季節は変わる

僕たちの意思とは関係なく。

せみが鳴り止むことを知らず、汗が滝のように流れる中、僕の携帯はうるさく、鳴り響いていた。

「う……ん。うるさい……。」

端っこまで蹴って移動した布団は無残な姿になり、潰れていた。

目を擦りながら、携帯の画面を見た。

そこには、「小田 雪」と乗っていた。

僕は携帯のボタンを押して、メールの中身を見た。

いきなりでごめん。

今日空いてる。

とだけ書かれていた。小田 雪とはクラスメイトであんまり親しくないが、アド交換はしていた。

まあ今日はバイトも何も無かったので

空いてる。

どこかで遊ぶ？

と送った。

僕は、無理矢理身体を起こして、洗面台に向かった。

蛇口を捻り、水が怒涛の滝のように流れていた。

手を滝につけ、手の中に水溜りが出来たことを確認すると、自分の顔に水を当てた。

それを何度か繰り返し、蛇口を捻り、水を止めて、自分の顔をタオルで拭く。

そして、自室へ行くと、携帯のメールランプが光っていた。

それを確認して、僕は携帯を開き、内容を確認する。

じゃ〜懐古公園広場で遊ぼ。

現地集合ね 噴水で待ってるよ。

何時待ち合わせがいい？

僕は壁にかかっている時計を見た。短針が10のところに触れるか触れないかくらいだったので、

12時にしよう。

と送り、朝食を済ませるためにリビングに出た。

朝食を済ませて、身支度を整えると11時15分。懐古公園広場までは、早くて35分。

少し急いで家を出て、公園に向かった。

公園に着いたのが、11時55分。

辺りを見回すと小野らしい人物は見当たらない。

俺は噴水近くの公園で適当に時間をつぶしてた。

すると、携帯が鳴り出した。

私はずいたよ。

今どこ？

僕は噴水の周りを見たが、小野 雪らしい人物は居なくて、噴水辺りをうろろろしていたら、

「佐藤君？」

と呼ばれて、後ろを振り向いたら、そこには、いつもより明るめの服を着ていて、学校の制服とは違う感じを出していた。

僕はあわてて

「小野さん？なんかいつもと雰囲気違うよね。」

すると、小野さんは、

「そうかな？」

と顔を赤らめて言った。

「じゃどこに行く？」

と聞いたら、小野さんは

「あそこに行きたい。」

といい、近くのデパートを指差した。

そして、たわいもない会話をして、小野さんは服が買ったかったらしく、あれや、これやと奮闘していた。

そして、短針が6時を指していた頃、僕たちは懐古公園まで来ていて、

「家まで送ろうか？」と誘ったけれど

「ううん。えっと・・・聞いてほしいことがあるんだけど・・・。」と、顔を沈めて語尾がどんどん細くなっていた。

「私ね・・・今日ね・・・誘ったのも・・・きだ・・・ら。」

最後のほうはよく聞き取れなかった。

「ん？もう一回言ってる？」
と言っただけ

「やっぱり、いいや。じゃまた明日ね。」

と顔を上げて笑顔でいい、走って僕の前から消えていった。

あれから3ヶ月。

僕はあれから小野さんを見かけるたびに目で追っていた。

そして、気がついたんだ。

僕はいつの間にか、彼女のことを好きになってしまっていたことに。でも、彼女の笑顔は僕に向けられていない。

気がついたらもう遅かったんだ。

隣の彼が笑うたびに君の顔は紅葉みたいになり、僕の心は枯れ葉のようになっっていく。

(後書き)

終わり方が半端なく変です。

ここまで、付き合ってください、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1718b/>

紅葉

2011年1月16日09時16分発行